

# カラマツ不成績造林地調査手順書

## 1. 背景・調査目的

町有林のカラマツ人工林において、造林初期に多くのカラマツが枯死・消失した林地（以下、不成績造林地）が2000年代初めの台風被害跡地に多く見られている。不成績造林地については財政状況等の要因によって被害発生後は補植が行われないまま時間が経過している状態となっている。不成績造林地のうち隣接する広葉樹林等からの種子供給によりカラマツと広葉樹の混交林となっている林地がある一方で、広葉樹が生育せず、低密度なカラマツ林となっている林地も存在している。そこで平成27年4月に設定した試験地において、どのような条件であれば、天然更新による成林が可能な林地となるのか明らかにするために、不成績造林地の立木度に関する調査を定期的実施する。

## 2. 調査方法

対象地として20林班1、6、19、64、65小班とする。各小班について北海道が作成した「天然更新完了基準書」及び「天然更新完了基準書（解説編）」を参考に、下記の通りとする。また、現地調査は5年毎に実施する事を基本とする。

- 標準地…各小班2箇所設置する。

標準地の大きさは1箇所につき10m×10mを基本とする。

標準地の位置は図面上に記載し、追跡調査を実施できるように杭等で標準地の端点を現地に残しておく。

- 対象木…天然更新完了基準書記載の高木性樹種とする（下記の通り）。

針葉樹：アカエゾマツ、エゾマツ、カラマツ、トドマツ

広葉樹：アオダモ、アサダ、イヌエンジュ、エゾヤマザクラ、カエデ類、カツラ、カンバ類、キハダ、クリ、コシアブラ、シナノキ、ナナカマド、ナラ類、ハリエンジュ、ハリギリ、ハルニレ、ハンノキ類、ホオノキ、ミズキ、ヤチダモ、ヤナギ類

- 野帳…天然更新完了基準書別紙2と同じ様式とする。

調査項目は層別（上層・中層・下層）の樹種、本数、特記事項とする。

## 3. 調査結果とりまとめ

野帳データはExcelに入力、写真データはjpg形式にて保存し、野帳の原本及び写真は綴って保管する。